

「文部科学省」から取材を受けました！

9月10日（水）、文部科学省の方々がSAHを実践する高校として前橋南高校へ取材に来てくれました。校長先生をはじめ、教員2名、新旧生徒会が取材に答えました。県からSAH指定校を受けて3年。教員も生徒もSAHというこの教育活動に対して、言語化し整理するよい機会となりました。予定時間ギリギリ（ややオーバー？）まで熱心に話を聞いていただきました。（編集 教頭）



取材を受けた生徒の感想を紹介します

「①今している取り組みについて、それを始めた理由」「②生徒会活動を通して成長したと思うところ」などを聞かれました。①は、現在はスポーツ大会での全校円陣などを計画し、体育委員さんの協力のもと準備を進めています！！昨年まではクラス同士の一体感は見られたものの全体としての一体感に欠けると感じたため、今年は全校の一体感をテーマにしてスポーツ大会の運営を行いました！！②について、人前に出て話すのに慣れたことは勿論、その他にも先を見通す能力がついたと思います。例えば、資料を作る時に、聞き手の立場になって、不足している情報を考えられるようになりました。このように日常生活でも大きな力となっていると思います。（新井稀唯 2年）



文科省の方とお話しできる機会は貴重だったので、少し緊張しましたがたくさん話を聞くことができて良かったです。これからも学校の魅力となるような活動を生徒会で積極的に行いたいと思うことができました。（森川心晴 2年）

文部科学省という国の機関から取材を受けるという、非常に貴重な経験をさせていただき、大変光栄に思います。質問に答える中で、自分がこれまで行ってきた活動を通して得た成長や、その活動の意義を改めて実感することができました。今回の経験を今後の学校生活にも生かしていきたいです。（平沢拓夢 2年）

お話をさせていただく中で、私達が前南で「挑戦してきた意味」を再確認することができ、充実した時間を過ごすことができました！私たちの「声」を届ける機会を得られたことにとても感謝しています。楽しかったこと、辛かったこと、悔しかったこと。挑戦をする過程の中で感じたすべての感情を受け止めていただけたことは当たり前ではないことだと感じるとともに、今まで挑戦してきたことは無駄ではなく、かけがえないものと改めて実感することができました。そして、私達の挑戦はきっと誰かが1歩を踏み出すときの勇気になる！そのように自信を持つことができました。私達が挑戦し続けた意味はきっと、次に前南を担ってくれる子達に影響を与え、みんなの中にあるエージェンシー（当事者意識、主体性）を発展させることにあると思う！私達がいろいろな人やものから影響を受けたように、次は私達がそんな存在になればいい、この挑戦に意味があったと思えるし本当に嬉しい！文部科学省の皆様、本当にありがとうございました！（腰高 紗依 3年）



◎文部科学省による取材 9/10

①インタビュー

原校長、原澤先生、高田先生、新旧生徒会

②授業参観及び校舎見学

インタビューを通して、旧生徒会に対してはこれまでのSAHの活動を振り返り自分達の足跡を確認、新生徒会に対してはそのエスプリを継承して自分達のカラーを出しながら主体的に動いていきたいという宣言を引き出してもらった気がします。

取材を受けた先生の感想を紹介します

原澤先生

①取材で聞かれたこと

Q SAH を始める前の生徒の状況は？

→素直で大人しいが、指示待ちの生徒が多かった。

Q 生徒の自主性を伸ばすうえで大切にしていることは？

→否定をせず、生徒と二人三脚で進むことです。

Q 取り組みをするうえで、国の制度で変わってほしいことは？

→予算として、各学校に生徒会が自由に使えるお金を試みに配ってほしい。

使い方は生徒に任せることが狙いです。

Q 生徒の成長が感じられるエピソードは？

→生徒が自主的に行事を進める様子が見られ、責任感がある行動を起こせている。

②取材を受けての感想

・SAH を始めて3年が経過し、インタビューを受けるごとに「生徒ともにいろいろやってきたなあ」と感慨深くなります。SAH と生徒会に携わせていただき、「自主性・主体性とは何か？」を常に考えるようになりました。その疑問は授業や部活動にも活きており、この経験は自分を大きく成長させてくれる要因にもなっています。生徒たちが今後も活発に活動できるように、教員として自分もできる限り彼らとともに歩みをとめないで頑張りたいと思います。



高田先生

①取材で聞かれたこと

Q 生徒たちの変化は？

→SAH に指定されアイスの自販機をはじめとするいくつかの事案が達成される現状を見て、生徒たちは自分たちから声をあげることが増えたと感じている。発言や提案してもいいんだという土壌が徐々に生まれ、授業の中でもそれは発揮されてきていると感じている。

Q 授業の中での SAH が発揮されているか？また教員間でもそれは意識されているか？

→教員間で授業づくりを工夫するようになっているのは間違いないと思う。生徒たちの変化と教員の変化の双方向の変化により授業スタイルは変わってきていると感じる。

Q 生徒たちからの「やってみたい！」という提案はなんでもかんでも受け入れているのか？

→基本的にはそうしている。まずは話を聞く。即座につっぱねることはしない。一緒に考えてみながら着地点を探る。実現が難しそうだと思うことについても伴走しながら、失敗しても「がんばれた」と思える取組になるよう軌道修正するのが教員の役割だと思っている。

Q 「study club」について、今後の展開については？

→非認知能力を育成することで副次的に認知能力を伸ばそうとしているのがこの取組なので、それは継続していく。理想としては3学年が揃った時に縦のつながりの中で教え合う、先輩としてアドバイスを送るなどの活動を考えている。

②取材を受けての感想

・主体的に取り組む姿勢は今後の教育のキーワードであることが改めて感じられた。群馬だけでなく全国で同様の取組が広まっていくことになると思うが、今後も学びを続けよりよい実践ができるようにしていきたい。
・身だしなみ、化粧の話などをして現場の空気感と社会の感じていることには隔たりがあると感じることができた。学校と社会のずれ、社会の変化や空気感を常に意識し理解した上で教育活動に向き合わなければ、自己満足に終わってしまう可能性が高いと危機感を持った。

文部科学省からの質問と生徒の回答の一部を紹介します

Q 主体的に取り組んだ結果、できるようになったこと・得られたことは？

- ・ **周りの人を頼れるようになった** (周りの意見を集めて、自分の意見と比べたり、まとめるのは時間がかかるので一人でやっちゃった方が楽と正直思っていた)
- ・ 時間をかけてでもいろいろな **人の意見を聞くことが大切**だと気づくことができた。
- ・ 責任を負う重みを知ることができた。 **やりたいことを貫き通すとき責任が伴う**。だけどその責任こそ成長を促してくれる。責任を負わせていただくことが当たり前でないと気づく。
- ・ 相手の意見の価値に気づけ、 **視野が広がった**
- ・ **プレゼン能力、企画力**
- ・ **最後までやりきる力**
- ・ **見通しをたてて行動する力**

▼最後に記念撮影



☆校長より☆ 今回の取材は文部科学省が発行している「ミラメク」、「ミラメク note」の記事のため、ということで行われました。ミラメクは教育、研究に関わる国、地方自治体、研究所等の取り組みが紹介されている冊子、web サイトです。肩肘張らずに読めるものですので、ぜひネットで検索してみてください。今回の文部科学省のインタビューをはじめ、SAH について多くの方が興味を持ち、前南生から話を聞いてくれています。「自ら考え、判断し、行動できる生徒」を育成するという取り組みに多くの方が関心を持ってくれているということなのだろうと感じます。小さな事でも良いので、これからも「自ら考え、判断し、行動すること」への挑戦を続けて欲しいと思います。(校長 原 拓史)